

団塊世代 地域の絆結ぶ

少子高齢化の進む地域を元気にしようと、

当別町で地域福祉活動
を続ける20〜30代の若
手中心のNPO法人
「ゆうゆう」と、団塊
世代を核とした60〜70
代の住民グループ「ペ
こちゃん」が二人三脚
で奮闘している。ゆう
ゆうが昨年12月、地域
の絆を深めようと、レ
ストラン「ペこべこ
はたけ」(太美町)を
開業したのを機に、そ
の趣旨に賛同した住民
が結成したが、ペこ
ちゃんだ。今年4月か
ら始めた月1回の住民
交流イベントは盛況
で、その活動に注目が
集まっている。

(鄭真)

「当別に元気を」若手のNPOと協力



「今日は楽しんでくだ
さい」。4月21日にレス
トランで開かれた子供向
け工作教室。ペこちゃん
の会員で講師役の玉木
紘さん(70)があいさつ
すると、幼児、児童から

「はい」と元気な声が返ってきた。

工作は、松ぼっくりと流木を使った置物づくり。玉木さんが5年前に引退後、楽しんでいる趣味だ。すべての会員19人で「子供たちが集まりやすい」と、初開催イベントのテーマを選んだ。

20席を用意した会場には、予想を大きく超える47人が集まった。付き添いの母親からは「週末に子供たち集まる機会がなかったのが良かった」という声も上がった。「こんなにたたくさん」。感動です。玉木さんは興奮を抑えられなかった。

月1回 知識や経験生かし住民交流

5年前に設立され、現在職員26人のゆうゆうは、自発性と行動力
を抑制されなかった。



き、運営協力も呼び掛けた。これに対し、60〜70代が自発的に集まり、看板づくりなどで行動力を発揮。これがペこちゃん結成につながった。

代表の五賀利雄さん(75)は元海保職員。1997年の退職後、当別に移住した。それ以降、町人口は1割減り、60歳以上上の人数は4割増加。石狩太美駅前が開かれ、10年ほど参加した最大2千人規模の夏祭りは、担いペこちゃんが初めて主催したイベント。子供たちでぎわい、玉木紘さん(後方左)も工作の指導に大忙しだった。4月21日、レストラン「ペこべこはたけ」

当別町 基幹産 人口は、1998年と比
業は農業。耕地面積 べ12%減の1万8224
積8840畝の3分の1 人。このうち60歳以上は
を小麦が占める。米や花 6279人で、全人口に
弁(かき)、野菜の生産 占める割合は98年比で13
も盛ん。今年3月現在の 増となる34%に。町は
人口減、少子高齢化対策
として、大都市圏の札幌
に近い農業地帯という地
域特性をPRし、町外か
らの移住促進に力を入れ
ている。

その上で「人口の多い
団塊世代が地域の課題に
向き合えば、貢献度は大
きい。当別の取り組みは
団塊の世代を地域で活用
するモデルになりうる」と話す。



手不足で中止。「地域の活気は年々、しぼむ一方」と感じるようになってきた。そんな時、レストラン建設を知り「地域を再び盛り上げたい」と考えた。

五賀さんは「退職後も、私たちは何かをしたいという気持ちを持っていて。ただきっかけがつかめなかっただけなんです」と、会員の思いを代弁する。

ペこちゃんのイベントは月1回ペース。今月26日には、「山菜名人」の会員を講師に、山菜料理